

平成12年(2000年) 10月31日 火曜日

産 経 新 聞

# 李前総統「出席できず残念」

## ビデオで 台湾側、対応に不満

長野の国際会議

日本と台湾の有識者が日台関係やアジアの安全保障問題について話し合う国際会議「アジア・オープン・フォーラム」が三十日、

たことは残念の至り」と述べ、暗に日本政府の対応に不満をあらわした。

ビデオメッセージは十五分間にわたり、グローバル化にともなう台湾の役割などについて演説している。

特に安全保障の観点から、

李登輝前総統は「人類の間に生じた衝突、論争あるいは紛争は安易に武力に訴え

ても根本的な問題を解決することは不可能であり、単

に恨みや悲しみ、後悔、いやすことのできない傷跡を残すのみとなる」と述べ、

台湾問題解決に武力行使を

辞さないとする中国を間接的な表現で非難した。

李登輝前総統の訪日問題をめぐっては、「一私人」として前総統は同会議出席を希望していたが、前総統を「千古の罪人」と位置付ける中国側は、「李登輝氏は祖国分裂をたくらみ、兩岸統一を阻むための行動を続けている。いかなる身分、名目であっても中国と国交を持つ国を訪問する」と断固反対する」と強く反発。日本政府も査証(ビザ)発給に難色を示し、実現しなかった。しかし、同会議出席の台湾側関係者からは、「日本は独立国家の尊厳を守るべきだ」と、中国に配慮する日本政府に強い不満の声が噴出した。

「新世紀への知的戦略」をテーマに長野県松本市で二日間の日程で開幕した。同会議への出席を希望しながら、訪日が実現しなかった李登輝前総統はビデオメッセージを寄せ、「諸情勢のため、自ら出席できなかつ

たため、自ら出席できなかつ